

農地利用最適化の推進のための活動

農委会名：八代市農業委員会

1 地域の概要

本市は、九州の中央部、熊本市の南約40kmに位置し、市域は東西約50km、南北約30kmで、約680km²の面積を有している。

東は九州山地の脊梁地帯を形成し宮崎県に境を接し、西は不知火海を隔てて天草諸島を望む。全面積の約70%が山間地、約30%が平野部からなっており、平野部は日本三急流の一つである球磨川及び氷川などから流下した土砂が堆積してできた扇状地と三角州を基部とした沖積平野と、藩政時代から行われてきた干拓事業により形成されている。

山・川・海そして広大な平野と多様で豊かな自然に恵まれており、特に一級河川の球磨川、氷川のもたらす豊富で良質な水の恩恵を受け、全国有数の農業生産地帯として発展してきた。

市内の作付面積（令和3年）をみると、最も多いのは米で3,970haとなっているが、食生活の変化による米の消費減少や昭和45年から始まった生産調整等により作付面積は減少傾向にあったが、令和元年度からは増加傾向に転じている。

野菜類は2,051haで、なかでもブロッコリーが最も多く803haで、令和元年より103ha増加している。また、次いで平成29年までは最も多かったトマトの531haとなっている。露地野菜では、レタスも増加傾向にあり、集出荷施設の保冷・予冷施設が整備され、安定的な出荷が可能となっている。

工芸作物は476haで、い草が最も多く369haとなっているが、生活様式の変化に伴う畳の需要減少に加え、中国産畳表や工業畳表の増加などにより、作付面積はピーク時（4,537ha：平成元年）の約8.1%まで減少している。その他にもお茶やたばこが栽培されている。

果樹は134haで、ギネス世界記録（かんきつ類・ザボン区・重量）にも認定された晩白柚（重量5,528g）をはじめ、不知火や温州みかんなどのかんきつ類のほか栗などが栽培されている。

花きは35haで、電照菊・カラー・トルコギキョウ・ユリなどが栽培されています。

2 農業委員会の体制

- (1) 農業委員数 19人（うち、認定12人、女性3人）
- (2) 推進委員数 29人（うち、認定22人、女性1人）
- (3) 事務局体制 8人（専任8人）

3 掲げた目標

- ◇農地パトロール（利用状況調査）及び利用意向調査の確実な実施
- ◇遊休農地の解消活動

4 目標達成に向けた取組み(運動)の内容

- (1) 市内全域の農地の利用状況調査を実施。対象農地の所有者等に意向調査書の発出
- (2) 農業委員、農地利用最適化推進委員による遊休農地の解消(巡回・指導)



【農業委員会による遊休農地の解消活動】

5 取り組みの成果

- (1) 遊休農地解消の対策として、市内全域の農地の利用状況調査を実施。その結果を受け、105件(162筆)に利用意向調査書を発出したところ、55件(90筆)の回答があり、うち12件(12筆)が農地中間管理機構の制度を利用したいとの意向であった。

解消面積：4.5ha

6 課題と今後の方針等

◇耕作放棄地対策

- ・ 利用状況調査と利用意向調査の確実な実施
- ・ 関係機関との連携

◇担い手への農地の集約化の推進

- ・ 農地中間管理機構の特例事業(農地売買等事業)等の活用